

国際学術情報流通基盤整備事業  
(SPARC Japan)  
年報

平成28(2016)年度

国立情報学研究所



## 目次

|                                       |    |
|---------------------------------------|----|
| 巻頭言                                   | 1  |
| 1 概要                                  | 2  |
| 1.1 第5期の活動概要                          | 2  |
| 1.1.1 第5期の基本方針                        | 2  |
| 1.1.2 第5期事業計画                         | 2  |
| 1.2 平成28年度活動                          | 3  |
| 1.2.1 SPARC Japan セミナー                | 3  |
| 1.2.2 海外動向調査                          | 3  |
| 1.2.3 arXiv.org コンソーシアム事務局            | 4  |
| 1.2.4 SCOAP <sup>3</sup> 支援           | 4  |
| 1.2.5 CLOCKSS 支援                      | 5  |
| 1.2.6 高エネルギー物理学分野の情報サービスに係る国際連携協定への対応 | 5  |
| 1.2.7 平成27年度 SPARC Japan 年報の発行        | 5  |
| 1.2.8 論文公表実態調査                        | 5  |
| 2 委員会等開催記録                            | 6  |
| 2.1 国際学術情報流通基盤整備事業運営委員会               | 6  |
| 2.2 SPARC Japan セミナー企画ワーキンググループ       | 6  |
| 3 委員名簿                                | 6  |
| 3.1 国際学術情報流通基盤整備事業運営委員会               | 6  |
| 3.2 SPARC Japan セミナー企画ワーキンググループ       | 7  |
| 4 SPARC Japan セミナーの記録                 | 8  |
| 5 総合年表                                | 9  |
| 6 刊行物一覧                               | 20 |
| 6.1 国際学術情報流通基盤整備事業(SPARC Japan)年報     | 20 |
| 6.2 SPARC Japan ニュースレター               | 20 |
| 6.3 SPARC Japan セミナー資料                | 20 |
| 7 資料 ニュースレター再掲                        | 23 |



## 巻頭言

平成 15 年から始まった本事業も、平成 28 年度で第 5 期の一年目を迎えました。この一年の活動を年報としてまとめました。SPARC Japan セミナーの内容をまとめたニュースレターもすべて再録しております。

第 5 期は第 4 期（平成 25～27 年度）の活動を継承し、オープンアクセス（OA）を推進し、学術情報流通の更なる発展に取り組むことを基本方針としています。第 4 期から第 5 期に引き継がれる課題としては(1) 国際的な OA イニシアティブとの協調、(2) 学術情報流通にかかわるアドボカシー活動、(3) オープンサイエンスへの活動スコープの拡大、(4) オープンアクセスに関する基礎的情報の把握があります。

そして第 5 期の初年次から、国際的な OA イニシアティブとの協調を活発に行うことになりました。特筆すべきは、CERN（欧州原子核研究機構）の SCOAP<sup>3</sup> の責任者である Dr. Salvatore Mele を招聘し、日本の高エネルギー物理学分野の研究者を対象としたシンポジウム開催を支援したこと、そして arXiv.org について、Member Advisory Board に日本コンソーシアム代表として京都大学引原隆士図書館機構長に出席いただき、グランドデザインや財政面の施策に対し、日本コンソーシアムの意見を発言いただいたことです。国際的イニシアティブをとりまく外的要因の変化や財政面等の課題にわが国も迅速に対応するために、国立情報学研究所が中心となって意見をとりまとめ、窓口を担当していることの意義はさらに高まっています。

また、アドボカシー活動として、「オープンサイエンス時代の文献とデータの流通」を年間テーマとした、SPARC Japan セミナーを 3 回開催しました。第 1 回セミナーでは、文献のグリーン OA とゴールド OA と日本としての対応について講演・ディスカッションが行われました。第 2 回セミナーでは、研究データについて、自然科学分野で実際に行われている図書館と研究グループ連携の取り組みや機関リポジトリの現状などの話題提供を行いました。第 3 回セミナーでは第 1 回・第 2 回のまとめも兼ねて、「オープンサイエンス再考」とし、オープンサイエンスの実現にむけ理念から一歩踏み込んだ、より実践的な活動に関する情報提供を行いました。

第 5 期も「大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議」の下、大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）やオープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）等との協調を一層強化し、学術情報流通の発展に向けて参加意識を強める方向でアドボカシー活動を継続的に行っていく所存です。

SPARC Japan は学術情報流通の更なる発展のため様々な活動を行います。引き続き、皆様の厚いご支援をお願い申し上げます。

平成 29 年 4 月 1 日

国際学術情報流通基盤整備事業委員長  
安達 淳

# 1 概要

## 1.1 第5期の活動概要

### 1.1.1 第5期の基本方針

第5期においても、第4期の活動を継承し、国内外のOAイニシアティブや関係組織と連携し、オープンアクセス等を推進し、学術情報流通の更なる発展に取り組むことを基本方針とする。

特に米国SPARCと連携し、日本のオープンアクセス活動を国際的に発信する。オープンアクセス等の推進にあたっては、まずその課題を把握することに努めると共に、「大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議」の下の機関リポジトリ推進委員会および大学図書館コンソーシアム連合等との協調を一層強化し、学術情報流通の発展に向けて参加意識を強める方向でアドボカシー活動を継続的に行っていく。

### 1.1.2 第5期事業計画

SPARC Japan 第5期の事業は次の4つを柱として計画することが、平成27年度第3回国際学術情報流通基盤整備事業運営委員会で決定した。

#### (1)国際的なOAイニシアティブとの協調

国際イニシアティブに参画し、日本の窓口としての役割を果たすとともに、その活動・成果のアピールに努める。これらも含めて、国際的な動向を注視し、必要な対応を行う。

#### (2)学術情報流通にかかわるアドボカシー活動

「大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議」等の組織と連携しつつ、オープンアクセスやオープンサイエンス、学協会出版の国際流通に係るアドボカシー活動を継続して実施する。

#### (3)オープンサイエンスへの活動スコープの拡大

研究成果のオープンアクセス、イノベーションの基盤となる可能性を秘めたオープンデータ、加えて高等教育の基本的構成要素の再考を迫るオープンエデュケーションなどへの関心の高まりにあわせて、理工学分野だけではなく、人文科学・社会科学分野の動向等に関して適時の情報提供を実現する。また、大学図書館におけるオープンサイエンスの取組み、研究データの管理等への関与について、戦略的な検討を行う。

#### (4)オープンアクセスに関する基礎的情報の把握

第4期に引き続き、オープンアクセスに関する基礎的情報を把握するために実態調査等を行う。各大学・研究機関の研究戦略を考える上で、データを集め分析するために、図書館が一定の役割を果たすことも検討する。

## 1.2 平成28年度活動

1.1の事業計画のもと、平成28年度は次のプロジェクトを実施した。

### 1.2.1 SPARC Japan セミナー

アドボカシー活動として、SPARC Japan セミナーを3回実施した。セミナーワーキンググループ（以下、「WG」という。）を立ち上げ、WGメンバー全員で年度を通じた全体テーマ、セミナー各回のテーマの割り振りを検討し、各回に担当者を置いて企画・実施した。セミナー終了後、SPARC Japan ニュースレター（以下、「NL」という。）を発行・ウェブ配信した。

|                    |   |                      |
|--------------------|---|----------------------|
| 第1回<br>平成28年9月9日   | オープンアクセスへの道<br><a href="http://www.nii.ac.jp/sparc/event/2016/20160909.html">http://www.nii.ac.jp/sparc/event/2016/20160909.html</a>                            | NL第30号<br>(2016年11月) |
| 第2回<br>平成28年10月26日 | 研究データオープン化推進に向けて：<br>インセンティブとデータマネジメント<br><a href="http://www.nii.ac.jp/sparc/event/2016/20161026.html">http://www.nii.ac.jp/sparc/event/2016/20161026.html</a> | NL第31号<br>(2017年1月)  |
| 第3回<br>平成29年2月14日  | 科学的知識創成の新たな標準基盤へ向けて：<br>オープンサイエンス再考<br><a href="http://www.nii.ac.jp/sparc/event/2016/20170214.html">http://www.nii.ac.jp/sparc/event/2016/20170214.html</a>    | NL第32号<br>(2017年4月)  |

### 1.2.2 海外動向調査

下記の国際会議等に参加し、情報収集を行った。

- ・ COAR (Confederation of Open Access Repository) Annual meeting 2016  
(4月11-13日 Wien、Austria) にNII 山地准教授を派遣した。
- ・ ORCID (Open Researcher and Contributor ID) Board Meeting  
(5月18-19日 Toronto、Canada) にNII 武田教授を派遣した。
- ・ CRIS2016 (The 13th International Conference on Current Research Information Systems)  
(6月8-11日 St Andrews、Scotland) に機関リポジトリ推進委員会協力員の大学図書館員1名を派遣した。
- ・ OR2016 (The 11th Annual International Conference on Open Repositories)  
(6月13-16日 Dublin、Ireland) に機関リポジトリ推進委員会協力員の大学図書館員1名とNII 山地准教授を派遣した。
- ・ RDA (Research Data Alliance) 8th Plenary Meeting  
(9月15-17日 Denver、USA) にNII 武田教授とNII 蔵川特任准教授を派遣した。
- ・ PIDapalooza (PID : Persistent ID)  
(11月9-10日 Reykjavík、Iceland) にNII 武田教授を派遣した。
- ・ IDF Strategic Meeting  
(1月17-19日 Barcelona、Spain) にNII 武田教授を派遣した。
- ・ Open Access に係る海外機関の調査  
(1月25-27日 Universitätsbibliothek Regensburg、Bayerische Staatsbibliothek、Max Planck Digital Library) に大学図書館コンソーシアム連合 (JUSTICE) 作業部会委員の大学図書館員2名を派遣した。

### 1.2.3 arXiv.org コンソーシアム事務局

arXiv.org は物理学のプレプリントサーバで、コーネル大学図書館が運用している。2014年12月に100万論文を突破し、新規登録数は年間9万件、ダウンロード数は年間約8,100万件である。利用件数上位の機関による財政支援があり、2013～2017年の「arXiv 会員制プログラム」には24カ国183機関が参加している。

日本においてはNIIが各大学の意思確認を取りまとめて支援してきた。利用回数順位300位までの大学に会員申請の意向調査を行った結果、2017年3月末現在の会員数は14機関である。

2014年4月にコーネル大学から、日本の会員館でコンソーシアムとして参加することについて打診があり、会員に確認の後、コンソーシアム契約に切り替えを行った。会費はコンソーシアム価格のため10%減となった。

さらに2015年度には、本コンソーシアム名を日本研究図書館コンソーシアム（英文名：Consortium of Japanese Research Libraries: Coordinated by National Institute of Informatics (NII)、英文略称：NII Japan Consortia）とした。また、引原隆士 京都大学図書館機構長が本コンソーシアムの代表に就任し、2016年からarXiv.orgのMember Advisory Board (MAB)に参加し、9月12-13日開催の会議に出席した。

### 1.2.4 SCOAP<sup>3</sup> 支援

2014年から開始したSCOAP<sup>3</sup>について2015年も参加意向および連絡先を確認し、日本の大学図書館からの拠出金を、日本のナショナル・コンタクト・ポイントであるNIIがとりまとめて支払った。なお、日本からは2016年3月末現在34機関が参加している。

SCOAP<sup>3</sup>によりOA化される論文数は着実に増えている。拠出額を算定する根拠とした2011年には当該10誌で3,552論文出版されたが、2014年中に4,280論文が、2015年には4,477論文が発行された。2014-15年の平均APC(Article Processing Charge)は1,100Euroであり、これはGold OA誌のAPCの水準から見ても低くなっている。

SCOAP<sup>3</sup>のOA論文を収載したSCOAP<sup>3</sup>リポジトリとそのAPIが既に公開されているが、リポジトリはDOI付与、CC BYライセンス表示、XML形式で公開されており、テキストマイニング、データマイニングが可能である。なお、2016年3月にはOA論文が1万件に達したことが報じられた。

本年度は、SCOAP<sup>3</sup>担当責任者であるSalvatore Mele氏（CERN）を招へいし、SCOAP<sup>3</sup>に関する講演・意見交換会（12月7日NII、12月8日京都）を開催した。また、SCOAP<sup>3</sup>評議会日本代表委員であるNII安達教授がExecutive Meeting（10月14-15日、2017年3月20日）及びGoverning Council Meeting（2017年3月23-24日）に出席した。



### 1.2.5 CLOCKSS 支援

CLOCKSS (Controlled Lots of Copies Keep Stuff Safe) は、全世界の研究者のためにデジタル資源 (Web ベースの学術文献等) の長期保存を実現することを目的とし、アーカイブとそれを運営するコミュニティを構築して、コンテンツが出版社から提供されなくなった場合にアーカイブ上のコンテンツを広く利用できるようにするなどの取り組みを行っている。

日本においては 2013 年から NII が各大学の意向確認および年会費支払いのとりまとめを行っている。なお、日本からは 2016 年 6 月末現在で 99 機関が参加している

### 1.2.6 高エネルギー物理学分野の情報サービスに係る国際連携協定への対応

高エネルギー物理学分野に関する国際連携協定を欧州原子核研究機構 (CERN)、高エネルギー加速器研究機構 (KEK) 及び国立情報学研究所 (NII) の 3 機関が締結した。CERN が提供する高エネルギー物理学分野の文献情報サービスである INSPIRE データベースを中心にデータキュレーションの実務に関する共同事業を行うために、平成 28 年 3 月から約 1 年間、大学図書館員 1 名を CERN に派遣するとともに、双方の関係者によるテレビ会議を複数回行った。

### 1.2.7 平成 27 年度 SPARC Japan 年報の発行

平成 27 年度の活動状況をまとめ、平成 28 年 10 月に発行した。また、平成 26 年度 SPARC Japan 年報について、平成 29 年 1 月に英語版を発行した。

### 1.2.8 論文公表実態調査

平成 27 年度に、大学図書館コンソーシアム連合 (JUSTICE) と連携し、JUSTICE の下に論文公表実態調査チームを設け、我が国における論文公表と APC (Article Processing Charge) の実態調査を開始した。平成 28 年度は引き続きフォローアップを行った。

## 2 委員会等開催記録

### 2.1 国際学術情報流通基盤整備事業運営委員会

| 開催日               | 議題   |
|-------------------|--|
| 第1回<br>平成28年9月6日  | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前回議事要旨（案）について</li> <li>2. 平成28年度 SPARC Japan セミナー進捗状況について【報告】</li> <li>3. 論文公表実態調査チームの活動状況について【報告】</li> <li>4. 国際連携の状況について【報告】</li> <li>5. Open Access に係る海外機関の調査について</li> <li>6. その他</li> </ol>   |
| 第2回<br>平成29年3月14日 | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前回議事要旨（案）について</li> <li>2. 平成28年度 SPARC Japan 事業報告【報告】</li> <li>3. 論文公表実態調査チームの活動状況について【報告】</li> <li>4. オープンアクセスに係る海外機関の調査について【報告】</li> <li>5. 国際連携の状況について【報告】</li> <li>6. 平成29年度 SPARC Japan 活動計画について【審議】</li> <li>7. 平成29年度 SPARC Japan セミナー企画ワーキンググループの設置について【審議】</li> <li>8. その他</li> </ol> |

### 2.2 SPARC Japan セミナー企画ワーキンググループ

| 開催日                      | 議題   |
|--------------------------|--|
| キックオフミーティング<br>平成28年6月9日 | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 年間テーマ確定</li> <li>2. スケジュール・分担検討</li> <li>3. その他</li> </ol> |

## 3 委員名簿

### 3.1 国際学術情報流通基盤整備事業運営委員会

| 氏名    | 所属・役職                          | 備考               |
|-------|--------------------------------|------------------|
| 逸村 裕  | 筑波大学 図書館情報メディア系 教授             | 1号委員<br>(研究教育職員) |
| 今井 浩  | 東京大学大学院 情報理工学系研究科 教授           | 1号委員<br>(研究教育職員) |
| 森 重文  | 京都大学高等研究院 院長・特別教授              | 1号委員<br>(研究教育職員) |
| 土屋 俊  | 独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構 教授        | 1号委員<br>(研究教育職員) |
| 倉田 敬子 | 慶應義塾大学 文学部 教授                  | 1号委員<br>(研究教育職員) |
| 小林 富雄 | 高エネルギー加速器研究機構 教授<br>国際連携推進室 室長 | 1号委員<br>(研究教育職員) |

|       |                                  |                         |
|-------|----------------------------------|-------------------------|
| 深貝 保則 | 横浜国立大学大学院国際社会科学研究院 教授            | 1号委員<br>(研究教育職員)        |
| 尾城 孝一 | 東京大学附属図書館 事務部長                   | 2号委員<br>(大学図書館関係者)      |
| 荘司 雅之 | 早稲田大学図書館 事務部長                    | 2号委員<br>(大学図書館関係者)      |
| 林 和弘  | 科学技術・学術政策研究所<br>科学技術予測センター 上席研究官 | 3号委員<br>(学会の関係者)        |
| 安達 淳  | 国立情報学研究所 副所長                     | 1号委員<br>(研究教育職員)<br>委員長 |
| 酒井 清彦 | 国立情報学研究所 学術基盤推進部 次長              | 2号委員<br>(大学図書館関係者)      |

### 3.2 SPARC Japan セミナー企画ワーキンググループ

| 氏名     | 所属・役職   |
|--------|---|
| 梶原 茂寿  | 北海道大学附属図書館 学術システム課<br>システム管理担当係長<br>(国立情報学研究所推薦)                      |
| 小野 亘   | 東京学芸大学 教育研究支援部<br>学術情報課長<br>(これからの学術情報システム構築検討委員会推薦)                  |
| 林 和弘   | 科学技術・学術政策研究所 科学技術予測センター<br>上席研究官                                      |
| 能勢 正仁  | 京都大学大学院理学研究科附属地磁気世界資料解析センター<br>助教                                     |
| 西脇 亜由子 | 明治大学 学術・社会連携部 図書館総務事務室<br>(大学図書館コンソーシアム連合運営委員会推薦)                     |
| 坊農 秀雅  | 情報・システム研究機構 データサイエンス共同利用基盤施設<br>ライフサイエンス統合データベースセンター (DBCLS)<br>特任准教授 |
| 南山 泰之  | 国立極地研究所 情報図書室<br>主任<br>(機関リポジトリ推進委員会推薦)                               |
| 蔵川 圭   | 国立情報学研究所 学術コンテンツ課<br>特任准教授  |

## 4 SPARC Japan セミナーの記録

平成 28 年度 SPARC Japan セミナー実施記録

| 回  | 実施日   | テーマ  | 企画WG (所属)  | 講師 (所属)   | 形態   | 参加人数 |
|----|---|--|--|---|------|------|
| 1  | 平成 28 年 9 月 9 日 (金)<br>13:00~16:40<br>(NII 12 階会議室)   | オープンアクセスへの道                                | ◎主査、五十音順<br>梶原 茂寿 (北海道大学附属図書館)<br>蔵川 圭 (国立情報学研究所) ◎<br>西脇 亜由子 (明治大学)<br>坊農 秀雅 (情報・システム研究機構<br>ライオンサイエンス統合データベースセンター) | ○土屋 俊一 (大学改革支援・学位授与機構)<br>○尾城 淳 (東京大学附属図書館)<br>○安達 孝 (国立情報学研究所)<br>○莊司 雅之 (早稲田大学図書館)<br>○坊農 秀雅 (情報・システム研究機構<br>ライオンサイエンス統合データベースセンター)<br>○〔モデレーター〕 山本 和雄 (琉球大学附属図書館)<br>○仲里 猛留 (情報・システム研究機構<br>ライオンサイエンス統合データベースセンター)<br>○下田 研一 (長崎大学附属図書館)<br>○南山 泰之 (国立極地研究所)<br>○青木 学聡 (京都大学情報環境機構)<br>○武田 英明 (研究データ活用協議会/国立情報学研究所)<br>○〔モデレーター〕 蔵川 圭 (国立情報学研究所)<br>○Ron Dekker (European Commission<br>(DG Research & Innovation) ) | オープン | 119  |
| 2  | 平成 28 年 10 月 26 日 (水)<br>13:00~17:15<br>(NII 12 階会議室) | 研究データオープン化推進に向けて：<br>インセンティブとデータ<br>マネジメント | 蔵川 圭 (国立情報学研究所)<br>能勢 正仁 (京都大学大学院理学研究科) ◎<br>坊農 秀雅 (情報・システム研究機構<br>ライオンサイエンス統合データベースセンター)<br>南山 泰之 (国立極地研究所)         | ○北本 朝展 (国立情報学研究所)<br>○小賀坂 康志 (科学技術振興機構)<br>○小野寺 千栄 (物質・材料研究機構)<br>○小野 雅史 (東京大学地球観測データ統融合連携研究機構)<br>○大向 一輝 (国立情報学研究所)<br>○梶原 茂寿 (北海道大学附属図書館)<br>○田村 峻一 (滋賀医科大学附属図書館)<br>○尾城 孝一 (東京大学附属図書館)<br>○〔モデレーター〕 林 和弘 (科学技術・学術政策研究所)  | オープン | 112  |
| 3  | 平成 29 年 2 月 14 日 (火)<br>10:30~17:20<br>(NII 12 階会議室)  | 科学的知識創成の新たな<br>標準基盤へ向けて：<br>オープンサイエンス再考    | 小野 亘 (東京学芸大学)<br>梶原 茂寿 (北海道大学附属図書館) ◎<br>能勢 正仁 (京都大学大学院理学研究科)<br>林 和弘 (科学技術・学術政策研究所)<br>南山 泰之 (国立極地研究所)              | ○北本 朝展 (国立情報学研究所)<br>○小賀坂 康志 (科学技術振興機構)<br>○小野寺 千栄 (物質・材料研究機構)<br>○小野 雅史 (東京大学地球観測データ統融合連携研究機構)<br>○大向 一輝 (国立情報学研究所)<br>○梶原 茂寿 (北海道大学附属図書館)<br>○田村 峻一 (滋賀医科大学附属図書館)<br>○尾城 孝一 (東京大学附属図書館)<br>○〔モデレーター〕 林 和弘 (科学技術・学術政策研究所)  | オープン | 118  |
| 合計 |   |  |  |   |      | 349  |
| 平均 |   |  |  |   |      | 116  |

## 5 総合年表

| 年度               | 評議会 運営委員会                               | 主催イベント  | その他のイベント   |
|------------------|---|---|--|
| 平成 15<br>(2003)  | 06/25 第 1 回評議会                          | 07/02 学協会向け事業説明会 (於：日本教育会館)   |  |
|                  | 07/14 事業参画提案の募集開始                       | 08/19 事業説明会 (於：東北大学 東北大学附属図書館との共催)  |  |
|                  | 08/01 第 1 回運営委員会                        |   |  |
|                  | 09/11 第 2 回運営委員会                        |   |  |
|                  | 09/17 第 2 回評議会 (事業参画提案決定)<br>09/17 記者発表 |   |  |
|                  | 10/08 作業グループ合同会議                        |   |  |
|                  |   | 01/21-29 Project Euclid 説明会 (於：学術総合センター、東北大学、<br>京都大学、名古屋大学)                              | 11/05 第 5 回図書館総合展フォーラム「SPARC/JAPAN：日本の<br>国際学術コミュニケーションの変革」開催 (於：東京国際フ<br>ォーラム 国立大学図書館協議会・私立大学図書館協会主<br>催) |
|                  |   | 02/23 SPARC/JAPAN 懇談会：参加学会への成果報告、新雑誌創刊<br>構想説明 (於：学術総合センター)                               | 11/20 国立大学図書館協議会電子ジャーナルスタスクフォース (生物<br>系、物理系、医学系の購読交渉)   |
|                  |   | 03/11 SPARC/JAPAN セミナー：生物系学協会誌をめぐる学術情報<br>流通体制の将来 -UniBio Press のめざすもの- (於：東京大<br>学附属図書館) |  |
|                  | 平成 16<br>(2004)                         | 03/22 第 3 回運営委員会  |  |
| 03/23 第 3 回評議会   |   |   |  |
| 05/28 第 1 回運営委員会 |   |   |  |
| 06/02 第 1 回評議会   |   |   |  |
| 06/07 参画提案募集開始   |   |   |  |
|                  | 09/15 第 2 回運営委員会                        | 07/07 学協会向け事業説明会 (於：学術総合センター)   | 07/01 国立大学図書館協会総会ワークショップ：「国際学術情報流通<br>基盤整備事業の活動」(於：大阪大学コンベンションセンタ<br>ー)                                    |

|                 |  |  |  |
|-----------------|--|--|--|
| 平成 17<br>(2005) | <p>09/22 第 2 回評議会 (事業参画提案選定)</p> <p>10/14 作業グループ合同会議</p> <p>03/07 第 3 回運営委員会</p> <p>03/10 第 3 回評議会</p> | <p>09/27 Project Euclid 懇談会 (Project Euclid への参画に関する技術的打ち合わせ、DPubS についての説明)</p> <p>10/15 シンポジウム：学会出版と学術コミュニケーション活動の変革～SPARC/JAPAN を事例として～ (於：広島大学中央図書館 広島大学図書館、国立情報学研究所、国立大学図書館協会国際学術コミュニケーション委員会共催)</p> <p>10/19 緊急シンポジウム「どうする日本の学術誌！」(於：早稲田大学総合学術情報センター (社) 高分子学会、(社) 電子情報通信学会、東北数学雑誌編集委員会、(社) 日本機械学会、(社) 日本金属学会、(社) 日本動物学会、(社) 日本分析化学会、日本哺乳動物卵子学会、日本哺乳類学会、国立情報学研究所共催)</p> <p>11/05 OUP 懇談会「Open Access の現状について」</p> <p>11/25 第 6 回図書館総合展フォーラム「学術コミュニケーションの最先端：オープン・アクセスとセルフアーカイブ」(於：バンアイコ横浜)</p> <p>01/27 ワークショップ「電子ジャーナルのビジネスモデル構築と学術出版をめぐる動向」(於：日本教育会館)</p> <p>03/24 シンポジウム「SPARC の現状と課題：学術雑誌・機関レポジトリ・オープン・アクセス」(於：早稲田大学)</p> | <p>10/19-20 Project Euclid DPubS Conference に参加 (於：コーネル大学)</p>   |
|                 | <p>06/06 第 1 回運営委員会</p> <p>06/08 第 1 回評議会</p>  | <p>05/19 SPARC/JAPAN 連続セミナー第 1 回「Nature の歴史、今、未来を語る - Nature の編集方針」</p> <p>06/29 SPARC/JAPAN 連続セミナー第 2 回「電子投稿査読システムとは何か - 今、日本で使えるシステム」JST「J-STAGE 投稿審査システム」</p> <p>07/09-10 電子ジャーナル利用の現在と未来に関するクロゼド・ワークショップ (於：経団連ゲストハウス、静岡)</p> <p>07/15 SPARC/JAPAN 連続セミナー第 3 回「オープン・アクセスの理念と実践 - 研究者・図書館・学術誌」</p>  | <p>06/21-22 JISC International Solutions for the Dissemination of Research に出席、討議 (ロンドン)</p> <p>07/07-08 エルゼビア・ライブラリ・コネクト・セミナー2005「ユーザーを理解する (Understanding Users)」(於：京都・東京、エルゼビア・ジャパン主催、NII 後援)</p> |

|  |   |   |
|--|---|---|
|  | <p>07/20 UniBio Press の挑戦 - 学会の新しいビジネスモデル (於：茨城大学 茨城大学図書館主催)</p> <p>09/22 SPARC/JAPAN 連続セミナー第4回「電子ジャーナルをどう作成し、どう公開するか」学協会、企業の試み)</p> <p>10/06 SPARC/JAPAN 連続セミナー第5回「主体である研究者は何をすべきか」電子ジャーナル時代を迎えて」(於：つくば国際会議場団法人日本動物学会第76回大会関連シンポジウムとの共催)</p> <p>11/24 SPARC/JAPAN 連続セミナー臨時回「Journal of Bioscience and Bioengineering WEB 投稿審査システム」説明会・デモンストレーション</p> <p>11/30 SPARC/JAPAN 連続セミナー第6回「第7回図書館総合展フォーラム COUNTER プロジェクト：オンライン利用統計の国際標準について」(於：パシフィコ横浜)</p> <p>12/01 COUNTER プロジェクトに関するクローズド・ワークショップ</p> <p>12/12 SPARC/JAPAN 連続セミナー第7回「日本の学術誌における英文校閲を考える」</p> <p>01/31 SPARC/JAPAN 連続セミナー第8回「学術情報流通をめぐる最近の動向と技術標準：Google Scholar、CrossRef、OAI-PMH、etc.」</p> <p>02/10 SPARC/JAPAN 連続セミナー第9回「SPARC/JAPAN 選定誌によるラップアップセッション」</p> | <p>09/15 山口大学図書館セミナー2005「日本の電子ジャーナルの現況」学術コミュニケーションの今日：SPARC/JAPAN の挑戦 (於：山口大学学術情報機構図書館主催)</p> <p>09/16 京都大学学術情報・電子ジャーナルシンポジウム「大学における学術情報資源の整備—電子ジャーナル時代の学術コミュニケーションの変革—」(於：京都大学 京都大学附属図書館とNII の共催)</p> <p>12/09 長崎大学附属図書館連続講演会第二回講演会「学術情報発信の新しい動向」：SPARC/JAPAN の活動と課題 (於：長崎大学附属図書館主催)</p> |
| <p>10/13 第2回運営委員会</p> <p>10/26 第2回評議会 (事業参画提案選定)</p> |   |   |
| <p>02/15 第3回運営委員会</p> <p>02/24 第3回評議会</p>            |   |   |
| <p>平成 18 (2006)</p>                                  |   | <p>03 米国研究図書館協会 (ARL) と MOU を締結</p> <p>07/03-04 エルゼビア・ライブラリ・コネクト・セミナー2006 「From “Search” to “Find” ～ 必要な情報を見つけやすい環境づくり ～」(於：東京・大阪、エルゼビア・ジャパン主</p>   |

|                 |   |   |  |
|-----------------|---|---|--|
| 平成 19<br>(2007) | <p>09/08 第 1 回運営委員会</p> <p>01/30 第 2 回運営委員会</p> | <p>「デジタルの展望」</p> <p>09/05 Sally Morris 氏講演会「Introducing ALPSP」</p> <p>09/29 SPARC Japan 連続セミナー2006 第 3 回「Web 投稿審査システムの検証：ビフォーアフター」</p> <p>11/02 SPARC Japan 連続セミナー2006 第 4 回「大学図書館から学術出版社への要望：COUNTER を例にして」</p> <p>11/20 第 8 回図書館総合展フォーラム「TRANSFER—出版社間のデジタル移行に伴う問題点とその解決に向けて」（於：パシフィック横浜）</p> <p>12/14 SPARC Japan 連続セミナー2006 第 5 回「著作権：学会の権利、著者の権利、機関リポジトリへの対応」</p> <p>12/18-19 「デジタル巨人の肩の上に立つ」機関リポジトリ、e-サイエンス、および学術コミュニケーションの将来に関する国際シンポジウム（於：都市センターホール）</p> <p>01/30 SPARC Japan 連続セミナー2006 第 6 回「e-Journal の販売とライセンスリング(2) 販売のプロに学ぶ成功の秘訣」</p> <p>03/05 SPARC Japan 連続セミナー2006 第 7 回「計量書誌学からジャーナル・論文のパフォーマンスを測る」</p> | <p>催、NII 後援)</p>   |
|                 | <p>06/12 パートナー誌合同会議</p> <p>07/19 第 1 回運営委員会</p> | <p>07/17 SPARC Japan 連続セミナー2007 第 1 回「計量書誌学からジャーナル・論文のパフォーマンスを測る②」</p> <p>10/02 SPARC Japan 連続セミナー2007 第 2 回「Web 投稿審査シ</p>  | <p>05/15 UniBio Press セミナー「生物系ジャーナルの挑戦—より明確に、より広く、その情報を伝えるために」（於：学術総合センター UniBio Press 主催）</p> <p>05/17 UniBio Press セミナー「生物系ジャーナルの挑戦—より明確に、より広く、その情報を伝えるために」（於：京都大学附属図書館 UniBio Press 主催）</p> <p>08/05-11 41th IUPAC (International Union of Pure and Applied Chemistry) 化学会議出展（トリノ）</p> <p>08/20-22 234th ACS 秋季大会出展（ボストン）</p> |



|                        |   |  |   |
|------------------------|---|--|---|
|                        |   | <p>テムの検証パート3 稿より良いシステムを目指して-」</p> <p>11/02 SPARC Japan 連続セミナー2007 第3回 「メタデータ Publishing の現在-電子ジャーナル主体の製作・出版に必要なもの」</p> <p>11/09 第9回図書館総合展プレゼンテーション 「日本の英文トップ電子ジャーナルの挑戦-図書館総合展プレゼンテーションパートナー誌からの提案-」 (於：パシフィック横浜)</p> <p>01/17 SPARC Japan-ALPSP 特別セミナー (第4回 SPARC Japan 連続セミナー2007) 「学術出版と学会 Journal Publishing and Scholarly Societies」</p> <p>01/18 ALPSP トレーニングコース 「Introduction to Journal Publishing」</p> | <p>11/07-09 第9回図書館総合展 (於：パシフィック横浜)</p>  |
| <p>平成20<br/>(2008)</p> | <p>02/29 第2回運営委員会</p> <p>12/14 パートナー誌と大学図書館の合同会議<br/>「SPARC Japan パートナー誌のコンソーシアム購入に向けて」</p> | <p>04/22 SPARC Japan セミナー2008 第1回 「研究成果発表の手段としての学術誌の将来」</p> <p>06/24 SPARC Japan セミナー2008 第2回 「学術出版とXML 対応-日本の課題」</p> <p>07/10 SPARC Japan セミナー2008 第3回 「韓国コンソーシアム事情 - 海外展開を目指して -」</p> <p>09/02-03 RIMS 研究集会 (第4回 SPARC Japan セミナー2008) 「紀要の電子化と周辺の話題」 (於：京都大学数理解析研究所 京都大学数理解析研究所主催)</p> <p>10/14 SPARC Japan セミナー2008 (Open Access Day 特別セミナー) 「日本における最適なオープン・アクセスとは何か?」</p>                                 | <p>06/15-17 SLA (Special Libraries Association 米国専門図書館協会) 年次総会 (シアトル)</p> <p>06/26 第55回国立大学図書館協会総会 (於：東北大学)</p> <p>07/13-15 中国化学会学術年会 (於：天津)</p> <p>08/17-19 236th ACS National Meeting &amp; Exposition 出展 (於：フロリダ デルフト)</p> <p>09/11-12 私立大学図書館協会総会 (於：國學院大學)</p> <p>09/16-20 2nd EuCheMS Chemistry Congress 出展 (於：トリノ)</p> <p>09/25-26 KESLI (Korean Electronic Site License Initiative) 電子情報 EXPO の発表、出展 (於：大田)</p> <p>10/12-15 15th North American ISSX (International Society for the Study of Xenobiotics) Meeting での広報 (於：サンディエゴ)</p> <p>10/27-30 ISAP2008 (International Symposium on Antennas and</p> |

|                         |   |   |  |
|-------------------------|---|---|--|
|                         |   | <p>11/17-18 SPARC Digital Repositories Meeting 2008 (於：ボルチモア SPARC、SPARC Europe、SPARC Japan 共同主催)</p> <p>11/25 SPARC Japan セミナー2008 第6回「IFを越えて・さらなる研究評価の在り方を考える」</p> <p>11/27 SPARC Japan セミナー2008 第7回(第10回国書館総合展・学術情報オープンサミット2008 フォーラム)「Open Access Update」</p> <p>12/16 SPARC Japan セミナー2008 第8回「日本で使える電子ジャーナルプラットフォーム」</p> <p>01/22-26 Project Euclidと数学系ジャーナルの打ち合せ (於：国立情報学研究所、京都大学、東京工業大学)</p> <p>02/13 SPARC Japan セミナー2008 第9回「SPARC Japan 選定誌がやってきたこと」</p> | <p>Propagation) 出展 (於：台湾)<br/>11/13-14 INFOPRO2008 プロダクトレビュー参加・出展 (於：日本科学未来館)</p> <p>12/17-20 EUC2008 (International Conference On Embedded and Ubiquitous Computing) 出展 (於：上海)</p> <p>03/16-20 AFS March Meeting 2009 (米国物理学年会) 出展 (於：ピッツバーグ)</p> |
| <p>平成 21<br/>(2009)</p> | <p>12/24 第1回運営委員会</p> <p>03/10 第2回運営委員会</p> <p>03/27 パートナー誌合同会議</p> <p>03/27 第3回運営委員会</p> <p>10/05 第1回運営委員会</p> | <p>06/25 SPARC Japan セミナー2009 第1回「研究者は発信する－多様な情報手段を用い、社会への拡がりを求めて」</p> <p>08/04 SPARC Japan セミナー2009 第2回「非営利出版のサステイナビリティとは－OUPに学ぶ」</p> <p>09/08-09 RIMS 研究集会 (第3回 SPARC Japan セミナー2009)「教学におけるデジタルライブラリー構築へ向けて－研究分野間の協調のもとに」</p> <p>09/17 日本動物学会大会 (第4回 SPARC Japan セミナー2009)「ZS プロジェクトについて」</p> <p>10/20 Open Access Week (第5回 SPARC Japan セミナー2009)「オープンアクセスのビジネスモデルと研究者の実際」</p> <p>11/11 第6回 SPARC Japan セミナー2009 (第11回国書館総合展学術情報オープンサミット2009 フォーラム)</p>         | <p>11/25 第9回アジア太平洋生物化学工学会議 (APBioChEC 2009)</p>  |

|                 |  |   |  |
|-----------------|--|---|--|
|                 |  | <p>「NIH Public Access Policy とは何か」</p> <p>12/11 第7回 SPARC Japan セミナー2009 「人文系学術誌の現状—機関リポジトリ、著作権、電子ジャーナル」</p> <p>02/02 第8回 SPARC Japan セミナー2009 「Marketing to Libraries Worldwide」</p> <p>02/03 ALPSP トレーニングコース<br/>「Effective Journals Marketing」</p> <p>03/23 第2回運営委員会</p>   | <p>に SPARC Japan の化学系パートナー誌が出展</p> <p>12/03-04 DRFIC 2009 デジタルリポジトリ連合国際会議 2009<br/>(於：東京工業大学 DRF (デジタルリポジトリ連合) と NII の共催)</p>  |
| 平成 22<br>(2010) |  | <p>06/23 第1回 SPARC Japan セミナー2010 「学会の仕事とその経営を知る」</p> <p>07/06 第2回 SPARC Japan セミナー2010 「ジャーナル出版—海外学会の現状」</p> <p>08/24 第3回 SPARC Japan セミナー2010 「図書館の仕事を知る—学術雑誌の購読と利用—」</p> <p>09/16 第4回 SPARC Japan セミナー2010 (RIMS 研究集会)<br/>「数学におけるデジタルライブラリー構築へ向けて」</p> <p>09/24 第5回 SPARC Japan セミナー2010 (社団法人 日本動物学会 第81回大会) 「日本の学術情報流通 10年後を見据えて」</p> <p>10/20 第6回 SPARC Japan セミナー2010 Open Access Week<br/>「日本発オープンアクセス」</p> <p>11/08- 09 SPARC Digital Repositories Meeting (デジタルリポジトリ</p> | <p>08/19 International Congress of Mathematicians (国際数学者会議) に出展</p> <p>08/22- 26 American Chemical Society (ACS) 2010 年 秋季大会に出展</p> <p>08/29-09/02 3rd EuCheMS Chemistry Congress (第3回ヨーロッパ化学会議) に出展</p> |

|              |                |   |  |
|--------------|----------------|---|--|
|              |                | <p>会議) (於：ポルチモア SPARC, SPARC Europe, SPARC Japan 共催)</p> <p>12/10 シンポジウム 「大学からの研究成果オープンアクセス化方針を考える」 (於：東京大学 国立大学図書館協会とNIIの共催)</p> <p>01/14 第7回 SPARC Japan セミナー2010 「著者IDの動向」</p> <p>02/03 第8回 SPARC Japan セミナー2010 「世界における日本の論文/日本の学術誌のインパクト」</p> <p>03/08 TIB (ドイツ技術情報図書館) / ZB MED (ドイツ医学中央図書館) / NII (国立情報学研究所) MoU 締結記念 講演会 「ドイツと日本における学術情報流通基盤の未来」 (於：学術総合センター 東京ドイツ文化センターとの共催)</p> |  |
| 平成 23 (2011) | 03/16 第1回運営委員会 | <p>10/28 第1回 SPARC Japan セミナー2011 Open Access Week 「OA出版の現況と戦略 (ジャーナル出版の側から)」</p> <p>12/06 第2回 SPARC Japan セミナー2011 「今時の文献管理ツール」 ワークショップ</p> <p>01/31 第3回 SPARC Japan セミナー2011 「学術情報流通の新たな展開 - 研究者・学会とオープンアクセス -」</p> <p>02/10 第4回 SPARC Japan セミナー2011 「学術情報流通の未来を切り開く - 電子ジャーナルの危機とオープンアクセス -」</p> <p>02/29 第5回 SPARC Japan セミナー2011 「OA メガジャーナルの興隆」</p>                                | <p>08/28-09/01 American Chemical Society (ACS) Fall 2011 National Meeting &amp; Exposition (第242回米国化学会秋季大会) に出展 (於：デンバー)</p> <p>09/04-09 14th Asian Chemical Congress 2011 (14 ACC) (第14回アジア化学会議) に出展(於：バンコク)</p> <p>10/26 2011 Open Access Korea(OAK) Conference での発表 (於：ソウル)</p> |

|                |  |   |   |
|----------------|--|---|---|
|                | 03/27 第2回運営委員会   | 03/26 第6回 SPARC Japan セミナー2011「数学出版に関するワークショップ」(於:東京理科大学 Project Euclid 主催、日本数学会共催ワークショップ)<br>05/25 第1回 SPARC Japan セミナー2012「学術評価を考える」<br>06/19 第2回 SPARC Japan セミナー2012「ジャーナルの発展をもとめて〜アラットフォーム移築を中心に〜」<br>07/25 第3回 SPARC Japan セミナー2012「平成25年度 科学研究費補助金(研究成果公開促進費)改革」<br>08/23 第4回 SPARC Japan セミナー2012「研究助成機関が刊行するオープンアクセス誌」<br>10/26 第5回 SPARC Japan セミナー2012「Open Access Week - 日本におけるオープンアクセス、この10年からの10年」<br>12/04 第6回 SPARC Japan セミナー2012「オープンアクセスによって図書館業務はどのように変わるのか〜図書館のためのオープンアクセス講座〜」<br>02/19 第7回 SPARC Japan セミナー2012「図書館によるオープンアクセス財政支援」 | 07/02-07 European Congress of Mathematics (ECM) に出展<br>(於:クラクフ、ポーランド)<br>08/19-21 American Chemical Society (ACS) Fall 2012 National Meeting & Exposition (第244回米国化学会秋季大会)に出展 (於:フィラデルフィア)<br>08/26-30 4th EuChemS Chemistry Congress (第4回ヨーロッパ化学会議) に出展 (於:ブラハ)<br>12/26-27 RIMS 共同研究 研究会にて基調講演 (於:京都大学) |
| 平成24<br>(2012) | 03/26 第1回運営委員会<br>03/27 第2回運営委員会<br>12/10 第1回運営委員会<br>03/26 第2回運営委員会 | 06/07 第1回 SPARC Japan セミナー2013「SPARCとSPARC Japanのこれから」<br>08/23 第2回 SPARC Japan セミナー2013「人社系オープンアクセスの現在」<br>10/25 第3回 SPARC Japan セミナー2013「オープンアクセス時代の研究成果のインパクトを再定義する:再利用とAltmetricsの現在」<br>12/19 第4回 SPARC Japan セミナー2013「今日の問題を解く、学術情報の受信と発信-Think Globally, Act Locally」<br>02/07 第5回 SPARC Japan セミナー2013「アジアを吹き抜けるオープンアクセスの風-過去、現在、未来」  | 08/06 第1回 OAジャーナルへの投稿に関する調査ワーキンググループ開催<br>10/02 第2回 OAジャーナルへの投稿に関する調査ワーキンググループ開催<br>12/04 SCOAP <sup>3</sup> とMOUを締結<br>01/27 RIMS 共同研究 研究会にて基調講演 (於:京都大学)<br>03/02 COAPI Meeting へ参加 (於:カンザスシティ)   |
| 平成25<br>(2013) |  |   |   |

|                         |   |   |   |
|-------------------------|---|---|---|
|                         |   | <p>03/24 第1回運営委員会</p>   | <p>03/03-04 SPARC2014 Open Access Meeting 本会議への参加<br/>(於：カンザスシティ)<br/>03/13 第3回 OA ジャーナナルへの投稿に関する調査ワーキング<br/>グループ開催</p>   |
| <p>平成 26<br/>(2014)</p> |   | <p>08/04 第1回 SPARC Japan セミナー2014 「大学/研究機関はどの<br/>ようにオープンアクセス費用と向き合うべきか—APCをめぐる<br/>国内外の動向から考える」<br/>09/26 第2回 SPARC Japan セミナー2014 「大学における OA ポ<br/>リシー：日本版 OA ポリシーのモデル構築に向けて」<br/>10/21 第3回 SPARC Japan セミナー2014 「「オープン世代」の<br/>Science」<br/>03/09 第4回 SPARC Japan セミナー2014 「グリーンコンテンツ<br/>の拡大のために我々にはなにをすべきか？」</p> | <p>05/21-23 COAR(Confederation of Open Access Repository) 2014<br/>Annual meeting への参加 (於：アテネ)<br/>06/09-13 OR2014 (The 9th Annual International Conference on<br/>Open Repositories)への参加 (於：ヘルシンキ)</p>   |
| <p>平成 27<br/>(2015)</p> | <p>08/04 第1回運営委員会<br/>11/30 第2回運営委員会<br/>03/24 第3回運営委員会</p> | <p>09/30 第1回 SPARC Japan セミナー2015 「学術情報のあり方 -<br/>人社系の研究評価を中心に -」<br/>10/21 第2回 SPARC Japan セミナー2015 「科学的研究プロセス<br/>と研究環境の新たなパラダイムに向けて - e-サイエンス, 研<br/>究データ共有, そして研究データ基盤 -」<br/>01/19 第3回 SPARC Japan セミナー2015 「研究者向けソーシヤ<br/>ルメディアサービスの可能性」<br/>03/09 第4回 SPARC Japan セミナー2015 「研究振興の文脈にお<br/>ける大学図書館の機能」</p>      | <p>04/15-16 COAR(Confederation of Open Access Repository) 2015<br/>Annual meeting への参加 (於：ポルト)<br/>05/18-20 ORCID-CASRAI Joint Outreach Conference &amp; Codefest<br/>及び ORCID Board Meeting への参加 (於：バルセロナ)<br/>06/08-11 OR2015 (The 10th Annual International Conference on<br/>Open Repositories)への参加 (於：インディアナポリス)<br/>11/03-06 ORCID Outreach Meeting &amp; Codefest, November 2015<br/>及び ORCID Board Meeting への参加(於：サンフランシスコ)<br/>02/02-03 ORCID Board Meeting への参加 (於：ロンドン)<br/>03/07-08 SPARC Meeting on Openness in Research &amp; Education へ<br/>の参加 (於：サンアントニオ)</p> |

|                 |  |   |
|-----------------|--|---|
| 平成 28<br>(2016) | <p>09/06 第1回運営委員会</p> <p>09/09 第1回 SPARC Japan セミナー2016 「オープンアクセスへの道」</p> <p>10/26 第2回 SPARC Japan セミナー2016 「研究データオープン化推進に向けて：インセンティブとデータマネジメント」</p> <p>02/14 第3回 SPARC Japan セミナー2016 「科学的知識創成の新たな標準基盤へ向けて：オープンサイエンス再考」</p> <p>03/14 第2回運営委員会</p> | <p>04/11-13 COAR (Confederation of Open Access Repository) Annual Meeting 2016 への参加 (於：ウィーン)</p> <p>05/18-19 ORCID Board Meeting への参加 (於：トロント)</p> <p>06/08-11 CRIS2016 (The 13th International Conference on Current Research Information Systems)への参加 (於：セントアンドリュース)</p> <p>06/13-16 OR2016 (The 11th Annual International Conference on Open Repositories)への参加 (於：ダブリン)</p> <p>09/12-13 arXiv.org Member Advisory Board Meeting への参加 (於：イタカ)</p> <p>09/15-17 RDA (Research Data Alliance) 8th Plenary Meeting への参加 (於：デンバー)</p> <p>10/14-15 SCOAP<sup>3</sup> Executive Meeting への参加(於：ジュネーブ)</p> <p>11/09-10 PIDapalooza (PID : Persistent ID) への参加 (於：レイキャビック)</p> <p>12/07-09 SCOAP<sup>3</sup> に関する講演・意見交換会への協力 (於：NII、京都)</p> <p>01/17-19 IDF Strategic Meeting への参加 (於：ババルセロナ)</p> <p>01/25-27 Open Access に係る海外機関の調査 (於：レーゲンズブルク、ミュンヘン)</p> <p>03/20 SCOAP<sup>3</sup> Executive Meeting への参加(於：ジュネーブ)</p> <p>03/23-24 SCOAP<sup>3</sup> Governing Council Meeting への参加 (於：ジュネーブ)</p> |
|-----------------|--|---|

## 6 刊行物一覧

### 6.1 国際学術情報流通基盤整備事業 (SPARC Japan) 年報

〔日本語〕

- ・ 国際学術情報流通基盤整備事業 (SPARC Japan) 年報 平成 27 (2015) 年度  
[http://www.nii.ac.jp/sparc/publications/annual/pdf/sparc\\_annual\\_2015.pdf](http://www.nii.ac.jp/sparc/publications/annual/pdf/sparc_annual_2015.pdf)

〔英語〕

- ・ SPARC Japan (International Scholarly Communication Initiative) Annual Report FY2014  
[http://www.nii.ac.jp/sparc/en/publications/pdf/sparc\\_annual\\_2014-E.pdf](http://www.nii.ac.jp/sparc/en/publications/pdf/sparc_annual_2014-E.pdf)

### 6.2 SPARC Japan ニュースレター

〔日本語〕

- ・ SPARC Japan NewsLetter 第 30 号 (2016 年 11 月)  
<http://www.nii.ac.jp/sparc/publications/newsletter/PDF/sj-NewsLetter-30.pdf>
- ・ SPARC Japan NewsLetter 第 31 号 (2017 年 1 月)  
<http://www.nii.ac.jp/sparc/publications/newsletter/PDF/sj-NewsLetter-31.pdf>
- ・ SPARC Japan NewsLetter 第 32 号 (2017 年 4 月)  
<http://www.nii.ac.jp/sparc/publications/newsletter/PDF/sj-NewsLetter-32.pdf>

〔英語〕

- ・ SPARC Japan NewsLetter No. 26, Nov. 2015  
<http://www.nii.ac.jp/sparc/en/publications/pdf/sj-NewsLetter26E.pdf>
- ・ SPARC Japan NewsLetter No. 27, Nov. 2015  
<http://www.nii.ac.jp/sparc/en/publications/pdf/sj-NewsLetter27E.pdf>
- ・ SPARC Japan NewsLetter No. 28, Feb. 2016  
<http://www.nii.ac.jp/sparc/en/publications/pdf/sj-NewsLetter28E.pdf>
- ・ SPARC Japan NewsLetter No. 29, Mar. 2016  
<http://www.nii.ac.jp/sparc/en/publications/pdf/sj-NewsLetter29E.pdf>
- ・ SPARC Japan NewsLetter No. 30, Nov. 2016  
<http://www.nii.ac.jp/sparc/en/publications/pdf/sj-NewsLetter30E.pdf>
- ・ SPARC Japan NewsLetter No. 31, Jan. 2017  
<http://www.nii.ac.jp/sparc/en/publications/pdf/sj-NewsLetter31E.pdf>

### 6.3 SPARC Japan セミナー資料

【第 1 回 SPARC Japan セミナー 2016】 (平成 28 年 9 月 9 日)

「オープンアクセスへの道」

<http://www.nii.ac.jp/sparc/event/2016/20160909.html>

「趣旨説明」 蔵川 圭 (国立情報学研究所)

「オープンアクセスのあり方, グリーン OA とゴールド OA」

土屋 俊 (大学改革支援・学位授与機構)



「学術雑誌のキャッシュフロー転換の可能性を探る～JUSTICE/SPARC Japan 合同調査チームによる調査結果の概要～」

尾城 孝一 (大学図書館コンソーシアム連合(JUSTICE)/東京大学附属図書館)

「SCOAP<sup>3</sup>による学術誌のオープンアクセスへの転換」 安達 淳 (国立情報学研究所)

「大学図書館におけるオープンアクセスの取組み」 荘司 雅之 (早稲田大学図書館)

「生命科学分野における研究者の投稿先雑誌選択趣向と OA への意味づけ」

坊農 秀雅 (情報・システム研究機構ライフサイエンス統合データベースセンター)

### 【第2回 SPARC Japan セミナー 2016】 (平成28年10月26日)

「研究データオープン化推進に向けて：インセンティブとデータマネジメント」

<http://www.nii.ac.jp/sparc/event/2016/20161026.html>

「趣旨説明」 能勢 正仁 (京都大学大学院理学研究科)

「医学生物学分野におけるデータのオープン化とそのインセンティブ」

仲里 猛留 (情報・システム研究機構ライフサイエンス統合データベースセンター)

「日本古写真画像データのオープン化と大学図書館の役割」

下田 研一 (長崎大学附属図書館)

「超高層大気観測データのメタデータ作成実験経過報告」

南山 泰之 (国立極地研究所)

「研究データマネジメントと日本の大学」 青木 学聡 (京都大学情報環境機構)

「研究データ利活用に関する国内活動及び国際動向について」

武田 英明 (研究データ利活用協議会/国立情報学研究所)

### 【第3回 SPARC Japan セミナー 2016】 (平成29年2月14日)

「科学的知識創成の新たな標準基盤へ向けて：オープンサイエンス再考」

<http://www.nii.ac.jp/sparc/event/2016/20170214.html>

「開会挨拶/概要説明」 梶原 茂寿 (北海道大学附属図書館)

“Open Science in a European Perspective”

Ron Dekker (European Commission (DG Research & Innovation))

「ディープラーニングとオープンサイエンス～研究の爆速化が引き起こす摩擦なき情報流通へのシフト～」

北本 朝展 (国立情報学研究所)

「JSTにおけるオープンサイエンスへの対応 (DMP 導入試行をはじめとして)」

小賀坂 康志 (科学技術振興機構)

「材料科学分野におけるデータ利用のライセンスの考え方 - 図書館からの視点」

小野寺 千栄 (物質・材料研究機構)

「研究データ共有の理想と現実, そして実践可能性～地球環境分野の研究基盤に関する意識調査から～」

小野 雅史 (東京大学地球観測データ統融合連携研究機構)

「研究データを用いたサービスの調査・企画」 大向 一輝 (国立情報学研究所)

「A 班：機関内研究情報統合システム (IRIIS) の企画構想」

田村 峻一 (滋賀医科大学附属図書館)

「B 班：オープンデータ利活用総合基盤システム「ODEN」の企画」

梶原 茂寿 (北海道大学附属図書館)

「RDM トレーニングツールの紹介」 尾城 孝一 (東京大学附属図書館)

国際学術情報流通基盤整備事業（SPARC Japan）年報  
—平成 28 (2016) 年度—

---

平成 30 年 3 月

発行 大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構  
国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課

〒101-8430 東京都千代田区一ツ橋 2 丁目 1 番 2 号

TEL 03-4212-2351

FAX 03-4212-2375

E-mail [sparc@nii.ac.jp](mailto:sparc@nii.ac.jp)

---

